



伊達中学校で行っている「全校一斉読書」の取り組みとして、先日みなさんに書いてもらった「私の一行」感想文コンクールの審査結果が出ました。今回は、審査結果の発表と最優秀賞と優秀賞に選ばれた感想文を紹介します。

第1回「私の一行」感想文コンクール結果発表

最優秀賞

3年2組 浅尾 真慧さん(番号③)

優秀賞

・3年3組 中村 百花さん(番号⑧)

・3年3組 渡邊 夏緒さん(番号⑥)

佳作

・1年2組 佐藤 静哉さん(番号④)

・1年2組 佐藤 樹里さん(番号⑨)

・1年3組 吉田 優希さん(番号②)

・2年2組 武藤 望叶さん(番号⑤)

・2年3組 神田 ゆずねさん(番号①)

・2年3組 大橋 明由さん(番号⑦)



最優秀作品・優秀作品紹介

最優秀賞 3年2組 浅尾 真慧

「なんとかして追い抜かしてやりたい」

僕はこんなことは考えたくはないです。三年間部活を続けてきて、たくさんのライバルと戦ってきました。しかし、人それぞれ目指していることもなりたいたいものも違っていました。結局、誰か他の人を気にしていたら成長することはできないと気づきました。実際、この話でも主人公はライバルのアイを気にして、結果的に何も得られませんでした。だから僕はこれからも他の人を気にすることもなく、自分と向き合っていきたいです。

優秀賞 3年3組 中村 百花

「自分がみにくくなるように願えば、アイはもっとみにくくなるわよ。自分の片手をけがするように願えば、アイは両手をけがするわ」
皆はライバルがいるとき、どうするか。私は負けたくないという思いで、一生懸命努力する。しかし、この一行のように自分は何もせず、ライバルを蹴落とすという方法もある。だが、この方法では自分自身は一向に成長しない。互いに高みを目指して努力するからこそ、成長し合えるのがライバルの良いところである。私はライバルと競い合い、常に上を目指して努力していきたい。

優秀賞 3年3組 渡邊 夏緒

「あたしたち妖精なんでもしてあげるって言うてるのに、ことわるのは人間のほうなのよ」

妖精のこの言葉の裏には、他人の幸福を願えない、また人が自分より幸せになることを許せない人間に対する皮肉が込められていると感じた。自分より優れている人に対する嫉妬と劣等感。また、自分の勝手な思い込みで妖精を逃がしてしまったことへの後悔。この話には、そんな人間の愚かさや哀れさ、欲張りな身を滅ぼすという人生の教訓が書かれている。私はそう思った。